

編集後記

自分の属している専門学会からの投稿原稿の査読依頼は、自分の専門、あるいはそれに近い領域の論文なので気軽にコメントできる。しかし、川崎医療福祉学会誌のような多領域にわたるものでは、学内には投稿した人以外に専門の人がいないことも多い。しかし査読はしなければならないので、編集委員は適任者を捜すのに苦勞する。誰もいないときには自分で何とかしなくてはならない羽目に陥る。文献もさがし、判らない専門用語も調べ、期限内に結論を出さねばならない。この一年間はかなりの負担を感じながら過ごしてきました。

投稿される方は、専門外の学内の人が読むことが多いので、初めての人にも判るように、かつ専門家にも満足されるような表現の工夫をしてほしいと思います。超先端的、超専門的なものはそれぞれ専門誌に出された方が評価されるかも知れません。

英文誌は緒方委員長の大変なご努力のお蔭で Chemical Abstracts に載せてもらえることになりました。国内の大学で出している雑誌でこのような例はまだ少ないので、大変喜ばしいことです。化学、生化学、栄養化学系の論文を出せば、世界中に直ちに情報が伝わります。奮ってご投稿下さい。

最近自分の部屋から世界中の有名雑誌の論文抄録もプリントアウトできるようになり、便利になりましたが、それだけに投稿の倫理を守らないと指弾されることもあると思います。気をつけなければなりません。

この雑誌が季刊になり、月刊になる日が来ることを夢みつつ今年最後の編集のお手伝いを終わらせていただきます。

編集委員 齋藤 泰一

川崎医療福祉学会誌は、第6巻1号および2号(1996)の編集に当たりまして、編集委員の他に、次の方々のご協力をいただきました。紙面をお借りいたしまして、深く謝意を表します。

竹内 一夫 (川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科)
宮岡 京子 (川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科)
八木 新緑 (川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科)
Betty S. Furuta (川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科)
木村 一彦 (川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科)
千野根勝行 (川崎医療福祉大学 医療技術学部 リハビリテーション学科)
椿原 彰夫 (川崎医療福祉大学 医療技術学部 リハビリテーション学科)
東嶋美佐子 (川崎医療福祉大学 医療技術学部 リハビリテーション学科)
古米 幸好 (川崎医療福祉大学 医療技術学部 リハビリテーション学科)
Mary F. McCrimmon (川崎医療福祉大学 非常勤講師)

(敬称略)

編集委員長 緒方正名